

B-6

中小企業移住の問題点

中小企業移住の問題点

703  
214  
EA

LIBRARY

JICA LIBRARY



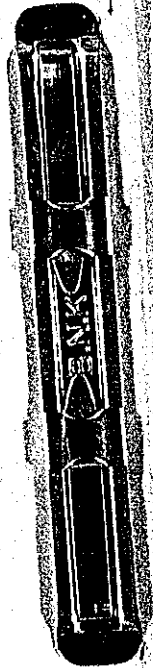
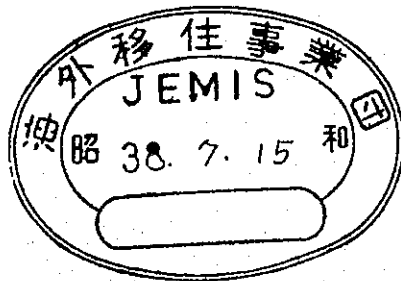
1024308173

昭和三十三年一月

B 6

# 中小企業移住の問題点

財団法人 日本海外協会連合会



國際協力事業團	
入 日 84.8.21	703
記録No. 13379	234
	EA

## 中小企業移住の問題点

従来の移住者は殆んど農業移住者であったが、最近日本国内においては中小企業の海外進出についての要望が盛んであり、その実例も若干見受けられる。現在までの先例は必ずしもうまくいっているとはいえないし、又本件に關する日本国内の論議も抽象的議論が多く、中小企業移住に対する日本国内の要望とその実現性とが混然しているものもある。

よってこれに關する種々の問題を簡単に検討してみることにする。

注1 主として当面最も問題となっているブラジルについて考察する。

2 中小企業の移住とは、中小企業者がその家族、販工を引具めて機械ぐるみ移住することを指す。

目次

一	序 説	1
1	1  伯国経済と中小企業	1
2	2  当面見込ある業種	2
二	中小企業移住の困難性	4
1	1  企業移住の性格	4
2	2  資 金	4
3	3  融 資	5
4	4  外国人雇用制限の問題	6
5	5  法規習慣	6
6	6  関連産業の問題	6
7	7  電力不足	7
8	8  機械の持込	7
9	9  在外日系人の協力	8

三 中小企業移住促進に必要な対策

- 1 日本における金融制度の設定
- 2 日本における資金持出の寛大化
- 3 伯国における金融制度の設定
- 4 あっせん指導機関の強化
- 5 大企業進出との関連

四 その他の諸問題

- 1 中小企業移住と貿易
- 2 中小企業移住と在外日系人
- 3 優良企業進出への疑問
- 4 中小企業移住の「移住」としての本質

備 考

日本より進出した企業

13

13

12

11

10

10

10

9

9

9

9

8

1 伯国経済と中小企業

戦後多くの後進国が国内の工業建設をその方針としているが、伯国も又その例に倣れず農業国から工業国へと転換すべく努力を続けている。これは近年における世界的な農産物価格低落によって、その伯国は農業生産の拡大及び輸重量増加にも拘らず外貨所得は漸次低落を余儀なくされるに至り、伯国としてはもはや農業のみに頼っている限り国内経済の安定は求められなくなり、こうした国際経済の中における劣弱は地位から脱脚するためにも工業化政策をとらざるを得なかつたのである。この傾向は特にオニ次世界大戦を契機として顕著となつてきたのであるが、こうした工業化への努力は次々に突を結び、現在伯国における大企業の数は増加の一途を辿っている。工業発展の過程は通常マニファクチュアから初つて小工業より大工業への途を辿るのであるが伯国における工業建設は下から積み上げられた漸進的拡大ではなく、急速なとして大企業から始まる建設であるため、外国資本特に米國資本により建設された大企業の裾野として存在しなればならない中小企業が甚しく欠けているのである。従つて今後益々その数を増す大企業は下請機關乃至材料供給機關として中小企業にその存立の基盤を提供するものと思われ。

他方コーヒ―価格低落のため近年の伯国の為替政策は外貨支出と嚴重に抑制する政策をとつてゐる。従つて外國製品の時に消費物資の輸入制限は厳しく、この面からも伯国

の中小企業は外国製品との競争の国外で生放し得るのである。なお、さらに伯国は前述の様に工業化への努力を続けているとは云いながら未だ経済全体からみればやっと工業化してきたという程度で、農業国の産物を脱しきってはいない。一流の外国資本が競つている都会を別として田舎に入れば、山村の鍛冶屋、的中小企業存立の可能性もあり、例えば農産物加工業、農機具製造業、製材業として若干の家内工業的な中小企業もここに当分はその存在を続けて行くであろうと思われる。

以上要するに伯国政府の政策面からみても、また伯国経済の特殊性からみても今後伯国経済における中小企業の必要性は増加しており、日本の中小企業の進出の可能性は大と云うべきであろう。

## 2 当面見込ある業種

A 次の業種は一応間違いのない業種と思われる。

イ 特殊小型電球

ロ 自転車用小型発電ランプ

ハ 新趣向の知的玩具

ニ 目新しいニガレットケース、ライター

ホ ミニ針、縫針

ヘ 特殊目覚時計



チ 竹細工

リ 日本趣味の家具

又 フレオン・クレパス

B. その他次の業種は、資金、技術及び市場面等より今後の調査を必要とするが、可能性大きいと思われる。

イ 各種機械器具の部品

ロ 建築材料特に金具

ハ 特殊洋式陶器

ニ 工業用薬品及び医薬品

ホ 魚網及び魚具

ヘ 水産物加工

ト 搾油

チ 耐火煉瓦

リ 眼鏡及び写真機のレンズ

又 通信機械

ル 木工特に家具

## 二、中小企業移住の困難性

### 1. 企業移住の性格

農業移住であれば当初の計画通りいかにくても、時には災害等のため失敗してしまつても再び立上ることも成功することも充分期待できる。そこが原始的産業であり家族単位経営の強みでもある。

しかし企業移住は、資金、機械、経営者、技術者、信用力等の高度の有機的集団であるから何か一つの粗糲は悉々致命的結果を招くこととなる。

肥沃な広野と恵まれた太陽の下で、その意志と体力さえあれば「何とかなる」という農業者の移住とは大いに異なり、遙かに慎重な調査と準備が必要なわけである。

### 2 資金

1. 従来の失敗の例をみると資金の不足が原因している例が、多し、莫然と見地知らぬ

- ヲ 特殊ガラス容器
- ワ ビニール加工
- カ 農器具
- ヨ 自動車、トラクター、金銭登録書の修理
- タ 特殊製紙
- レ イ、ロ、ヌとも含む伸鋼工業

ばならない。

ロ、経営が軌道に乗る迄の移住者の生活費についても六ヶ月乃至一ヶ年分は自ら準備する必要がある。

家族単位の移住と異り、他人とまぜた集団であるから、給料の遅配欠配等は操業に絶対必要な同行した技術者労働者の離散を招くことがある。

ハ、伯国における労働基準法は相当高度であり、一寸した工場を造るとしても、採光、通風、男女別の便所、更衣ロッカー、飲み水その他の基準は厳しく、日本の中小工場の多くの場合のように安易な方法は許されない。従つてこの方面の経費も相当額に達するのである。

ニ、労働法上都会労働者の労働時間は厳守されるので（八時間労働週間四十八時間、日曜祭日は有給休暇）労働時間の延長で能率を上げるのには限度がある。従つて日本の多くの中小工場の特徴であるところの旧式の機械で安価な労働力を長時間投入することにより、利益をあげるといふ方式はなりたないから、優秀高価な機械が必要とされる。

### 3. 融 資

日本における中小企業の経営の困難が金融難に基いている如く、伯国における中小企業の経営の困難性も又金融難に原因している。特に信用力の乏しい新来の企業にとつては、

金融の便は極めて少ない。

#### 4 外国人雇用制限の問題

イ 所謂「三分の二法」により取工が三人以上ある場合少くともその三分の二は伯國人又は十ヶ年以上伯國に居住し、伯國人たる妻又は子を有する外國人たることを要するので日本人移住者だけで小ジンマリと工場と持つことは不可能である。

ロ 又同種の仕事に対しては外國人と伯國人は同一の賃金を支払うことが法律で強制されているので、本来は安価な現地人に対し相当高度の生活水準を有する日本人移住者と同様な賃金を支払わねばならないので、思わざる経費と必要とする。

又日本人移住者に現地人並の給与を支給してはその生活はなりたない。

#### 5 言語及び法規習慣等

新移住者は言葉が不自由という致命的ハンドキヤップがあるばかりでなく、伯國の法規習慣に暗く、経営、取引等を行う能力が甚しく欠けている。特に伯國の販売税、消費税の規定は複雑であり、現地に良き協力者がなければ、とうてい企業を經營することは困難である。

#### 6 関連産業の問題

伯國においては工業が比較的發達しているサンパウロに於いてすら、工場を円滑に運營するための関連産業に欠けている場合が多い。即ち日本であれば当然のこととして簡單に入手できる材料、器械、半製品或いは修理の発注等の便宜が不十分である。

日本におけるように部分品を買い集め、それに多少の加工をして製品化することは不可能に近く、大部分の製品を自己生産する必要がある。従つて年間の資金回数は二回と  
いうのが普通であつて、多量の技術と予想外の資金を必要とする。

#### 7. 電力不足

中南米は、一般に電力が不足しているが、特に日本中小企業進出の主たる目標である  
サンパウロ方面の電力は著しく不足しており、新しく工場用電力の割当を取得するには  
種々困難があり、自家動力発電も予め考慮されねばならない。

#### 8. 機械類の持ち込

イ、伯国関税法は、半年以上使用した中古品に限り、移住者が自ら職業上の機械、器具  
を携行することと認めているが、実際問題としてはなかなか困難であり、事前に在日  
伯国大使館の許可を受けておかないと不測の罰金を課せられる。許可された場合も所  
定の関税が徴されることも計算に入れておく必要がある。

ロ、要為替輸入として特別の事前許可を得て導入できるのは、伯国にない、又は不足し  
ている重要な機械であり、一般の機械設備は有為替輸入である。従つて中小企業の場合  
はこの有為替輸入の場合が多いと考えられる。

伯国にとり絶対必要なく可からざるものと認定される機械で、自由為替市場を通じ  
て代金決済が行われぬとの保証が得られる場合に限つて有為替輸入は認められるこ  
ともある。

そのためには予め總務と競売市場で入手し、日本向に輸入信用状を取りくまなければならぬ。

この場合現地資金の調達、日本よりの資金の伯国向送金が問題となるが、伯国の金融難及び日本の資金持出の不円滑は大きな障害となつてゐる。

### 9 在外日系人の協力

既に述べたように中小企業進出には現地日系人の協力は必須の条件であるが、これは次のような難点がある。

イ、現地日系人社会はかつての農業一本槍から漸く商工方面に発達しつつあるが、大多数の人々の関心は依然として手馴れたガフ充分の収益の期待でさる奥地開発に向けられてゐる。従つてその収益の大部分は土地に投資されており、これを工業方面に転換するには相当の努力と時日と要する。

ロ、経済が完全に近代化してゐない伯国においては、一般伯国人もそうであるが、特に日系人社会においては株式投資欲は低調である。

ハ、日本より進出する大企業は別として、基礎の薄弱な中小企業と提携する危険を冒す有能にして信用ある人を見つけることはなかなかに困難であらう。

## 三 中小企業移住促進に必要な対策

必要な対策は前章に述べた隘路により自ら明らかであるが、当面の対策として次のよう

1. 日本における金融制度の設定

中小企業者が手持の古機械を伯国に持込んでも競争上、又能率採算上不利と考えられる場合が多い。従つて機械の新規購入、資金の長期金融の途が開かれねばならない。

2. 日本における資金持出の寛大化

前章で述べたように自ら推行する中古品で許可あるものを除き、中小企業の機械類は無為替輸入は許されないで、原則的には、有為替輸入となる場合が多いと思われる。この輸入為替購入の資金は日本より送金これねばならぬし、相当の運転資金、生活資金も必要とする。従つてこれら資金の持出、送金が寛大に許されねば企業の進出は困難となる。

3. 伯国における金融制度の設定

たとえ現地日系人の協力により土地建物等が準備され、機械類の持込により設備が出来上つたとしても、相当多額の運転資金が是非必要であつて、移住当初は信用の点で、現地金融機関よりの借入は期待できない。

従つてこの金融は移住振興会社現地機関により受けねばならないが、渡航してきてからの交渉では時間的に間に合わないから、出発前予め資金は確保これねばならない。あつせん指導機関の強化

自力で充分の調査を行い、進出できる大企業と異り、中小企業の場合は移住をあつせ

ん指導する機関は是非必要である。

この機関は有望な業種を調査し、その現地協力者との仲介、技術、金融、事業、採算等の指導援助等を行い、他方国内では現地との連絡の下に、その整理、送込に当るものであるが、当面新設の機構を必要とする程多量の移住は考えられないし、一般農業又は一般労働移住と相俟って推進すべきものであるから、海協連としては、日本国内では商工会議所、海外では日系人商工会議所、JETRO等の協力を得てあつせん、指導をして行きたいと考えている。

#### 5 大企業進出との関連

大企業が進出する際は、なるべく関連下請中小企業等を随伴して進出するように配慮すると中小企業移住の効果は相当大きいものがある。

その場合、調査、金融その他につき大企業が面倒をみてくれるし、最低限必要な販売先を予め確保出来るもので、中小企業は比較的たやすく移住することができる。

但し、その大企業にとっては、中小企業の随伴が常に利益を伴うとはいえないであらう。

### 四 その他の諸問題

#### 1 中小企業移住と貿易

大企業の海外進出は有意義なものであることはいうまでもないが、長期的には企業進



出の結果がその企業の生産物と同種の製品のその国への輸出を妨げる要因となることは否定できない。

しかし中小企業に限って言えば、日本国内で生産される中小企業の製品は本米南米諸国へ輸出される可能性は極めて少ない。大工場製品は主として後進国へ輸出され、中小企業の製品は主として先進国へ輸出されるというのが日本の貿易型体であって、中小企業は日本に残置させておいても、外貨不足のため重要機械類等を除き輸入制限の厳しい南米諸国より外貨を稼ぐ可能性は殆んどない。従って大企業の進出の場合と異り中小企業移住が日本の貿易にマイナスに働く面は全くないと考えてよい。

## 2 中小企業移住と在外日系人社会

現在伯国における日系人の総財産は、三〇〇〇億円に達すると推定されるが、オニ章オ九項にも述べた通りこれらの財産の殆んどは農業資産であり、日系人の関心も農業開発にのみ殆んど指向されている状態である。しかし伯国経済の工業化、外国資本の進出、工業方面への関心と能力を有する日本よりの新移住者の渡来等により近年その関心は漸く商工業方面に転換の兆しがみえる。

或る意味では伯国における日系人社会は、産業革命の前夜、とも云うべき状態であつて尨大に蓄積された日系人資本が商工業特に工業方面に進出したときは伯国における日本人の地盤は真に確乎たるものとなるであらう。

その意味で日本よりの中小企業移住は極めて時機に適しているのであって、伯国日系人社会の「産業革命」へのテコともなることが期待される。

### 3 優良企業進出への疑問

伯国経済は甚だしく後進国的性格があるとともに、他面では各国資本の進出により世界一流の工業が建設されている。

従って先にも述べた通り日本より移住する企業は原則として新式の機械を備えた優良企業でなければならぬ。

しかし優良企業であれば日本国内でも充分経営を維持向上することができるわけであるから、危険を冒して海外へ移住するか否か相当の疑問なきを得ない。

当会が今日迄移住相談を受けた中小企業についても、優良な企業は余り見受けられなかったし、従来の農業移住の例にみても健全な経営を営む中規模以上の農民の海外移住への要望は少く、当然のことながら経営の困難な小農の移住希望が圧倒的に多い。

農業経営困難な小農は必ずしも移住者としての不相当と意味するものではなく、むしろ反対にその困苦欠乏に堪える精神と体力は、移住者としての優れた一面もあるわけであるが、経営不振な中小企業が土地を渡えただけで優良な経営を行い得る能力を備えているかは問題である。

中小企業の移住が現実化した際、海外への進出の能力を備えている企業は移住と救し



操業準備中のもの

鐘	織	綿	紡	サンパウロ	一〇〇〇〇〇〇〇〇〇	クルゼイロス
横	紙	ダン	ボール	〃	六八六二〇〇〇	〃
新	潟	モ	ートル	リオ	デ	ジ
海	外	機	械	修	理	ネ
バ	イ	ロ	ット	ペ	ン	〃
味	の	素	味の	素	バ	キ
長	岡	芸	荷	油	〃	〃
西	沢	ミ	ニン	部	分	品
日	本	漁	業	レ	シ	ツ
太	洋	漁	業	サ	ニ	ト
土	井	丸	栄	サ	ニ	パ
モ	ニ	テ	ア	レ	グ	レ
ジ	マ	テ	イク	電	光	ニ
豊	和	工	業	紡	織	機
日	商	榨	油	食	用	油
				サ	ン	パ
				ウ	ロ	
						五〇〇〇〇〇〇〇〇

雨宮工業(昨年九月出帆)

プラスチック  
ビニール加工

3 進出確定せるもの

石川島造船

造船

リオテジマネイロ

小野田セメント

セメント

シミツフエ

インディアノポリス工業  
(三月出帆)

小型電球

サンパウロ

富士フィルム

レントゲンフィルム

サンパウロ

倉敷紡

羊毛トップ

リオ・グランデ・ド・スール

4 失敗した例

○バストス縫糸工場

三〇年六月

○東海ミニン

三二年七月

現在、操業開始困難な状況にあるが、融資があれば再起の可能ありと云われる。

○ セルゲアミニン 二七年 リオデジマネイロ

操業開始に至らず後滅類処分模様

